

自立への第1歩、おむつからトイレへ

兵庫県社会福祉事業団 特別養護老人ホーム万寿の家

高齢者の「自立支援・重度化防止」の推進は、超高齢化社会を迎えた日本における重要課題です。「自立への第1歩、おむつからトイレへ」という取り組みは、利用者の尊厳を守り、生活の質を向上させるための具体的なアプローチです。

この取り組みでは、福祉用具や介護テクノロジーを活用し、利用者がトイレでの排泄を可能にするために多職種が協働して取り組みました。

一方で、介護業界は人手不足や財源不足といった課題に直面しており、要介護者の増加、「老老介護」「認認介護」といった新たな問題も浮上しています。そのため、介護の質を維持しつつ効率的な支援を行うことが求められています。

このような背景の中、「おむつからトイレへ」という取り組みは、身体的な自立支援のみならず、利用者の心理的な満足感や社会的つながりを促進する可能性を秘めています。

今後も、多職種が連携し、介護テクノロジーを効果的に活用する一方で、対人援助としての本質を忘れず、人が人を支援するという基本に立ち戻りながら、入居者の自立支援・重度化防止に努めていきたいと考えています。

兵庫県社会福祉事業団 特別養護老人ホーム万寿の家 所長 友納 和也

